

伊東の『「未来を拓く」新しい図書館をつくろう 市民ワークショップ』
～第3回まとめ資料～

1. 開催概要

令和2年12月に開催を予定していた第3回市民ワークショップは、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面で開催いたしました。第3回は、「2回のワークショップを終えて」と「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」の二つをテーマに考えていただきました。

一つ目のテーマ、「2回のワークショップを終えて」では、第3回までの策定委員会を経て、概ねの図書館の方向性が定まったことを受け、最後に市民の皆様から補足したい点や、決定案について、特に強調したい点をワークシートに記入していただきました。

二つ目のテーマ、「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」では、伊東市の地図を用いて市内にある様々な施設との連携サービスを考えていただきました。また、施設との連携サービスに限らず、電子書籍の導入・拡充といった、施設に限定されないサービスも考えていただきました。

伊東市新図書館基本構想策定に向けた市民ワークショップ（第3回）の概要

<書面にて実施>

集計日時：令和2年12月14日（月）～12月24日（木）

回答者：30名（一般15名、高校生6名、中学生9名）

内容：①「2回のワークショップを終えて」
②「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」

2. 結果

これまでのご意見に加え、さらに強調したい点としては、「静」と「動」のスペース分け、参考書や問題集を設置した集中できる学習室、Wi-Fiの設備環境、障がいを持った方に対する配慮が行き届いた施設であることなどのご意見が上がりました。

「新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう」では、市内各施設でのサービスとして、返却ポストやサテライト図書館の設置といったご意見が数多く上がり、その他に、移動図書館の拡充、民間図書館やカフェなどの商店との連携、屋外型イベントの実施、シャトルバスの運行などが上がりました。また、施設に限定されないサービスとしては、電子図書館、地域資料のデジタル化、SNSやアプリの活用による情報発信などのご意見をいただきました。

次頁以降では、各グループの結果をテーマ別にまとめたものを掲載しています。

一般A班 テーマ①：「2回のワークショップを終えて」＜補足＞と＜強調＞

＜補足＞
<p>2.2.2 新図書館ゾーニング案</p> <p>③児童コーナー機能を有するフロア（案）</p> <p>子ども向けのフロア拡充の検討をありがとうございます。</p> <p><u>キッズスペース</u></p> <ul style="list-style-type: none">・柔らかい床、靴を脱いでいられるスペース、角のない（丸い）棚。・乳児、幼児、児童に自然と分けられるような本や遊具などの配置→安全面に配慮できるのではと思います。
<p><u>図書館マナーを教えるオリエンテーリング</u></p> <p>利用にあたり必ず周知されていてほしいです。</p> <ul style="list-style-type: none">・キッズスペース入口や場面が変わるところなどに“約束”が一目で分かる看板・掲示物の設置（ユニバーサルデザインであると良いと思います）。・保護者向け手紙配布。・できればキッズスペースに人員を配置して声かけのできる環境だと助かります。利用者同士では注意しにくいところもあります。 <p>本を大切にできる子どもを育む支援の仕方を教えていただける場になってほしいです。</p>
<p><u>屋外にキッズスペース</u></p> <p>伊東図書館のイメージとなるようなモニュメント、子どもに「図書館へ行こう」「〇〇へ行こう」と言えるような目印となるような美術品があると楽しいかなと思いました。</p>
<p><u>綺麗なトイレ・おむつ替えスペース・キッズトイレの設置</u></p> <p>富士宮市では、「おもてなしはトイレから」と様々なトイレを綺麗にしています。是非、真似してほしいです。</p> <p>子どもが気軽に行ける図書館。</p>
<p>（ボランティア？）<u>定期的に</u>折り紙教室や編み物教室、読み聞かせなどのイベントを開くことで、ついでに本を借りよう（返そう）という子ども連れの方の利用が増えると思う。</p>
<p>勉強スペースは、現在のように重く閉ざされた雰囲気ではなく、窓の大きい空間や天井の高い空間にして、<u>家や塾とは別の勉強拠点</u>を目指すより需要があると思う。</p>

<強調>

これからの伊東市のために子育てのしやすい環境、進学した後にも戻ってきたいと思える環境は不可欠だと考えます。

新図書館を通して、子どもたちが新しい興味を持ったり知識を深めたりできるよう、小さいうちから図書館が身近なところになるよういつの時代の子育て世代も通いやすい場所になってくれることを望みます。

「静」と「動」の両方で学習スペースを設ける。

参考書、問題集（赤本など）の貸出。

空間の区別。

- ・ 静かな空間とうるさくして良い空間、中間のサワサワした空間。
- ・ 空間分けすることでたくさんの人が利用できる場所。

静と動。

漫画。

Wi-Fi。

本紹介コーナー（サービス？）の設置。

一般B班 テーマ①：「2回のワークショップを終えて」＜補足＞と＜強調＞

＜補足＞
（第3回策定委員会資料）&WS第3回資料p.21⑤”配架については利用者が普段出会わないような新たな本と出会えるしつらえに”賛成ですが、この書き方だと全体にそうするように読めてしまいます…”一部”ですよね!?
【追加意見】大型書店がない伊豆地区。新刊書のコーナーが重要になるのでは!?
最新情報に対応した図書館～各コーナーごとに新刊コーナー。/特に一般書の新刊コーナーは大きめにとる。等地域資料のデジタルアーカイブ（学習、調査のための機能の充実）。
伊東図書館が所有している貴重本の適切な保存と公開（学習、調査のための機能の充実）。
オンラインデータベース（学習、調査のための機能の充実）。
新しい機能の「コワーキングスペース」でTV会議やオンラインイベント開催に対応というのはどうでしょう。
④ティーンズルームに絵本の意見について。 策定委の資料に絵本と明記され良かった！のですが、齋藤さんが「絵本まるごとティーンズへ？」と思われたそうです。先日、別の図書館に相談したところ、大人・ティーンズ向けの絵本は同じ本をそれぞれ（2冊買って）<子供の絵本><大人の絵本>（=デザイン等でもOK）と分類を分けると言っていました。子どもエリアにも絵本を明記して頂けるとわかりやすいかと思えます。
【追加意見】子どもの本エリアにも「調べもの」対応を。 小学生の調べ学習に対応したコーナーとスタッフ対応。
【追加意見】読み聞かせ・おはなし室について。 暗幕等で暗くできる/ダウンライト&調光で雰囲気作り/ペープサート、パネルシアター対応で音楽も流せると良いかも。ラジカセでもまあ、いいんですが。
（奈良市立図書館のおはなし室のダウンライトやしらべものコーナーを）見て良いなと思いました。
以前にも出た遊楽客など市外の方への貸出については、マイナンバーカードを活用して宅配業者やコンビニエンスストアなどと連携して実現を図ってほしい。
地元民のサービス向上は大切ですが、観光客などの外から来る人のためにサービスを開放できるものが多いと、より多くの人に長い時間使用してもらえないのでしょうか。話題になる図書館を希望します。
5Fまでであるとすると各フロアに最低3名は司書さんほしい。とすると15名以上は必要かと！
地図で見ると、南部（伊豆高原エリア）に、図書館機能を備えた施設の出張所があると良いと思いました。 候補地例：伊東高校城ヶ崎分校の跡地・建物利用 理由：テーマ②の地図から、南部に図書館機能があったら利用者にも地域にとっても利便性が良いから。
資料p.6ワークシートで、ギャラリーが「交流」に分類されていますが、展示は必ずしも作家本人との交流が目的とは限りません。展示内容から学べる（ことが出来る）ことを目指しているのが通常です。また展示内容=情報・アイデアとして、「発信」にも分類できます！（あ、入ってました！）
ワークシート下部「交流」内にまちがい。×絵本博士→○絵本専門士です。

※青字はファシリテーターによって追加した文言です。

<強調>

<今の伊東に足りないもの> (そもそも) ふつうの図書館 (特に蔵書数・仕事や学習に使えるレベルの選書・司書人数も。大事です。) ※絶対押さえるのはココ。【ワークシート対応：本と出会う/①調べもの】
→移住定住促進には不可欠です。都市部における普通のインフラです。

市全体の返却網などは市内各所のカフェ、コンビニエンスストア等連携して市民の移動の活性化に反映してほしい。

<今の伊東に足りないもの> コミュニティスペース (生涯学習サポート)

- ・コミュニティカレッジ→学習…文学・歴史・語学等【ワークシート対応：語り/講演】
- ・ファブ&ワークショップ→制作・将来展望/練習 (音楽・演劇等)【ワークシート対応：ワークショップ①②】
- ・ボランティア・サークル【ワークシート対応：声を出して本を読む/大人よみきかせ】
⇒ (発表・展示・活用/つながり) ⇒学び合い/鑑賞【ワークシート対応：交流/ギャラリー】 ⇒子ども・若者の夢につながる/成長・生きがい・まちの魅力

<今の伊東に足りないもの> 文化的な刺激を受ける機会

→他都市・他国からの情報/音楽・科学・文学・美術など【交流/海外から作家を呼びたい/市外へも知らされるレベルの展示】

⇒子ども・若者の夢につながる

<今の伊東に足りないもの> 居場所←こちらは図書館に限りませんが、WS結果を見て…。サードプレイス = 車内なのが残念なので…

→1人になれる場所→カフェ、自習室、閲覧室等 (居心地大事) ⇔現状：車の中で子供の習いごとを待つお母さん/兄弟がいて家で落ち着けない高学年/どこに行っても知り合いに会う

→みんなで会う場所 (イベント以外) →カフェ、グループ学習室 (エリア)、サークル等⇔ママ友 (接点が少ない、車が止められる場所も少ない) は外で立ち話。コミセンで集まると苦情が。

図書館イコール本イコール読む物であると思うが、その「読む」という行為が、目で読む、とは限らない、点字を必要としている人を忘れないでほしい。同じように税金を払って、様々な施設を利用している。しかし、声をあげて意見する場はほとんど無いかもしれない。伊東市の新図書館には点字本の充実、目が見えない方たちへ配慮が行き届いた施設になってもらいたいと願っています。

一般C班 テーマ①：「2回のワークショップを終えて」＜補足＞と＜強調＞

＜補足＞
本の質を徐々に整える。 ・相互扶助に頼らず自市図書で補える本量。 ・スポーツ、歴史、図鑑、辞書などは時々刻々変化するので新しい物を導入してもらいたい。 ・どの本も自由に手にできる。 ・月刊本を増やしてほしい（例）福音館かがくのとも→絵でも見、子どもから大人まで論理的で終始がはっきりして図鑑よりより分かる）。 ・中高生の読むべき本に注目してほしい。
ロビー：観光案内目的（子ども）ジオラマ（交通模型が動くもの、鉄道・バス・大島・初島航路の舟）。
幼児に付き添う親も寛げる雰囲気の部屋。
中高生の勉強部屋。（働き盛りは来ない）
定年退職者の余暇を過ごせる飲食スペース。
おしゃれなカフェは本を読んだり調べものをして疲れた頭をリフレッシュしてくれる。市内のカフェが入れ替わりながら看板のスイーツを提供してくれるのも良いかもしれません。 以前住んでいた名古屋市、その隣の日進市は市債を発行し、住民達を巻き込んで30億かけて新図書館建設。10年以上前であるが最新式の機能をふんだんに取り入れた使い勝手の良い図書館。何より住んでいる街に立派な図書館があるということは住民にとって誇りでありステータスなのだと感じた。
講演：本の読み解き会。30～50人収容（防音）、マイク・スピーカー設備、プロジェクター使用可（スクリーンまたは白壁）。/美術絵画を観る会。/音楽を聞く会。
市内にある民間図書室（サザンクロスリゾート内の「憩いと癒しのライブラリー」、大室高原の「沙羅の樹文庫」）と連携と協力関係を取る工夫をしてほしい。各図書室とどのような連携が取れるかを協議して行ってほしい。
ともだち号での本の貸出と返却の際に、本館と連携を取れる端末を導入してほしい（現在は一旦ノートパソコンに静的に情報を保存して、本館に持ち帰って、その情報を本館の情報に組み込む方式を取っているらしい）。
ともだち号の台数を増やして、毎週、決まった時間と曜日に利用できるようにしてほしい。1カ所滞在時間が短すぎるので1時間にして貰えると有り難い。
隣接自治体（熱海市、東伊豆町）の図書館との相互利用を進めて行ってほしい。
トイレ・休憩室（使用できる人員への配慮）。
特色のある温泉場の図書館であることが判る内容・蔵書・外観。窓大きく、自然光を取り込む。 図書館の構想がテーマでしたのであまり話題にならなかったのですが、インテリアの仕事を20年程やっていたので外観や内装についてのワークショップもあつたら良かったと思います。建物や内装、なるべく地元の材木や竹、今は希少となってしまっている伊豆石等アクセントウォールなどで使ってほしいと思います。 デスクや椅子、キャビネットなど地元の若い作家達をコンペに参加させる。内装デザインもコンクールを総なめしてしまうような高校生達の若い豊かな感性を取り入れるべくどんどん参加してもらおう。地元に関わることで地元の良さに気づき、将来の展望も見えてくるのではないのでしょうか。若い人が地元に住みたい、学んだことを生かしたいと思えるようそういった場をどんどん提供してほしいと思います。
車の乗降場（玄関）：雨屋根（障害お持ちの人向け）。
職員の資格。 できるだけ司書資格を持っている職員を図書館に配置する、あるいは図書館に配置した職員で司書資格を持たない場合は資格を取るようになってほしい。

<補足>

新図書館を作るに当たり、

- ・市庁舎→誰もが言う→建設費のかかりすぎ。
- ・健康センター→多目的室が見えるのに通路が分からない。
- ・市民病院→開かずのドアが多く外が見えても出られない。

近年市が建てた市の施設。これらは災害時外に出られない。出入口が密になる。

- ・現生涯学習センターは空調を取り替えたばかりなのに換気が悪い。足元が冷え、疲れやすい。

→これらを反省し、

- ・災害時を視野に入れ、自由に出入りできる非常口を多めに（防犯のため図書カードを利用する）。
- ・冷暖房は温泉を利用し、省エネでCO₂を出さない。
- ・常に照明は南向きを基に自然光を無駄にしない。
- ・空調は外気を上手に取り入れ、エコな環境に。
- ・窓の開閉は自由にできる。
- ・天井、床を利用し、分かりやすい通路・室割り。

1.博物館（郷土資料館）を図書館内に常設する（④伊東市情報センター機能を有するフロア）。

（1）伊東に関係した偉人・出身者の紹介。

<別荘に住み、地域と関わった>北里柴三郎・東郷平八郎・中村正直（敬宇）・阿久悠（1976年から亡くなるまでの作品の収集）

<出身者>伊東祐親・肥田浜五郎・木下杢太郎・土木技術者太田圓三・彫刻家重岡建治の功績を讃え展示する。

（2）伊東の生活の歴史を常設展示。

伊東市文化財管理センターと連携し、縄文土器等の遺跡、生活の歴史、昔話、民話、方言を紹介する。

（3）ユネスコ世界ジオパーク伊東市内ジオスポット紹介。

ジオスポットの写真での紹介とDVDで動画を常設スクリーンに放映する。

（4）伊東市に関する小説・映画・民謡・童謡・歌謡曲の紹介。

坂口安吾・尾崎士郎・室生犀星・中谷宇吉郎・幸田露伴・川端康成・北原白秋・星野哲郎・阿久悠・関野幾生等。

「目で見て、耳で聴いて、郷土を知ろう!!」

①（1）～（4）に関する講演会・音楽会・映画会・語る会等のイベントを図書館が主催して開催する。

②（1）～（4）についての各専門家によるセミナー（複数回）の実施。

③新図書館「郷土資料館案内人」として登録雇用し案内をする（郷土史家、伊東自然歴史案内人会、伊豆半島ジオガイド協会等の協力必要）。

④郷土資料館アプリを作成し、利用者に専用アプリをインストールしていただき、各コーナーでの専門家の案内紹介をイヤホンで鑑賞できるようにする（常時）。

⑤語る会、特に読み聞かせは子ども（幼児・小・中別）・大人と世代別に開催する。新図書館以外の市内各地で出前読み聞かせ会を開催する。

場所柄、建物と駐車場で他の設備は不要。遊園地など。

図書離れは無視し、多い来館者中心に考える（データで見て）。対策は完成後に後追いができること。

図書館は生涯学習センター2Fにあり、3・4Fは生涯学習室がある。私は3・4Fの生涯学習の利用者に心無い言葉を受けた。それは私が図書ボランティアで大荷物を持ち、エレベーターの前で立っていたところ。「ここは生涯学習センターだから図書館は間借りしているんだから階段で行きなさい。」それ以来階段利用となった。

駐車場、3・4F同様なことがありました。

<補足>

2回のワークショップを振り返って。

- ・多種多様な意見が出されたようだが、自己利益を求める意見が強く述べられて雰囲気があり、怖さがあった。もっと公の目線で図書館づくりを考えてもらいたい。
- ・限られた人数で希望者のみだったので、意見が偏っていたようだ。
- ・障がい者（視覚聴覚、身体、知的）の方々の意見もお願いしたかった。
- ・なお、障がい者は図書館に来ることを遠慮している（奇声やよだれなど）。

各班のまとめについて

全体として、まず「図書館とはどういう場所か」という問題。

一例えば、知識、文化、情報の発信、保存といった1つの共通認識を明確にしてから、意見交換をした方が良かった。

拠点に対する意見が散漫になってしまった感じがする。そのため「広場」「会話」「支援」「キッズ」「娯楽」「足湯」「体育館」「野外」「運動」など、自分の要望を上げている。伊東市の図書館としてのアイデンティティーを失われている案も多い。B班は、「読む」「知る」というキーワードを中心に拠点を設定してまとまっている。C班の「講演会」のアイデアは良いと思う。

<強調>

郷土エリアでは視覚だけでなく耳から入ってくる情報で音声ガイドがあるとよりわかりやすいと思います。QRコードで携帯に取り込んでの音声ガイドは自分のペースで見てもいいので便利です。

最初の挨拶の中に中高生の利用が少ないとありましたが、図書館の存在が身近ではないからだと思います。小学校入学時、様々なオリエンテーリングがあると思いますが、その中に“図書館”を組み込む。クラス単位、学年単位で図書館で利用の仕方、マナー等を学び利用カードを作る。知識の引き出しを準備してあげることが大切だと思います。こういった試みは移住を考える若い子育て世代へのアピールになるかと。

利用者の身になり、使い易さを出す、リピーターを増やす。

口コミで拡大。

図書館の利用者を増やす→図書館を利用するとお得だ！と感じさせる。

現状の利用時のレシートでは一時凌ぎで紛失。集積しておくで消える印字。そこで図書通帳はどうでしょう？→機械化。

- ・カウント→どれだけ読んだか。
- ・本名→どんな本を読んだか。
- ・本定価・累積価値→税金をどれだけ利用できたか。
- ・目に見えるお得感。
- ・自分は年間本を読んだか、他者と比較する満足感。

無理な気を引くことは不要（図書館の人寄せ）。

全てにバリアフリー化。壁面を有効化。

建物の外観で人目を引くよう。

1F：幼児・小学低学年（声を出しても良い）。表紙が見える書架。

2F：一般閲覧室。新聞を拡げて読めるスペース。

3F：学習室。細く小間割り、静かさを求める。

何階建てか不明なので最小フロア。

屋上は不要、明り取りが必要、現在の暗いイメージを無くす。

市の美術館が無いので美術館としての機能もほしいです。玄関ホールや館内の壁面をギャラリーに。市内の美術品収集家や美術館と連携してギャラリートークや作品の紹介なども。

図書館、美術館、博物館の併設。

図書読み聞かせボランティアをするにあたり、自己趣向に捉われず多種多様な本を読むことが望ましいと思う。なぜならば今まで仕事やボランティアで読み聞かせをすると、人間の趣味嗜好は十人十色で人間の数だけ様々なのでボランティアをする相手に則し、趣向、年齢に応じた本を読み聞かせることが必要と感じる。しかしながら広報という図書館だよりを見るとどうも流行に乗った本、軽い本と貸出が固定化している。でもワークショップでも読み聞かせをリモート化したらという声も上がったが…。

生の読み聞かせの良いところは利用者の意思を接して聞く。生の相手を受け入れることから始め選書する。“読んであげる”のでは無い、聞いていただく、楽しんでもらう、利用者の意見を聞くことがボランティアの仕事です。ボランティアは脇、利用者が主です。

本の固定化を防ぎ、利用者に多くの良い本を読んでいただく、このことを活用できる建物をお願いしたい。

私も一冊手作り本を寄贈し、持ち出し禁止本になっている（盲人用あいうえお本）。

- ・手作り絵本コンクールなどはどうだろう。
- ・そのためにはまず図書館の本を利用し、参考とすることを前提とか利用度を深める。
- ・良作品は市民のために図書の資料となるのか！

→図書館利用度を高めるコンクールやアイデアを市民に募ることが肝要。

< 強調 >

伊豆高原駅にサテライト図書館を設置

(1) 伊東市南部にも市の施設を

伊東市の施設は伊東市市街地に固まっています、近年、人口が増加しつつある南部には何一つ、市の施設は作られていない。

(2) 市民の憩いの場作りと駅周辺の活性化

伊豆高原に、小さくても良いのでサテライト図書館を設置すれば、駅の飲食店や商店も賑わうきっかけになると思う。伊豆高原駅には、新図書館に希望が多かった足湯も、カフェもレストランも既にある。借りてきた本を足湯やカフェやレストランで読んで寛ぎの時間を過ごすこともできる。市民の為になると同時に伊豆高原駅周辺の商業施設を活性化させる可能性がある。

(3) 観光の情報起点に

観光客も、まず図書館で観光地点やマップを調べることができるので、観光の出発点としても利用価値が高いと思う。個人旅行に一番大事なものは「情報」である。そして図書館は「情報」の拠点である。観光産業を重要視するのであれば、伊豆高原にサテライト図書館を設置することを考えてほしい。

伊豆高原駅にサテライト図書館を設置する。

南部エリアは別荘地が多く、退職後移住の65歳以上が多く、伊東市の中でも特に高齢化が進んでいる地域です。伊東までバスや電車となるとなかなか利用しづらい駅であれば既存のジオの展示コーナーと連携して特色ある図書館となります。観光客や電車を利用する人にとっても便利で喜ばれると思います。

「場」としての図書館と「サービス」としての図書館

「場」としての図書館を利用するには、様々な制約がある。

(1) 地理的制約：家が近ければ利用しやすいが遠ければ利用しにくい。

(2) 交通手段の制約：家が遠い、高齢で免許を返上した、自動車を持たないなどのために、公共交通しか使えない人は利用しにくい。

(3) 時間的制約：仕事で開館時間に来られない人も居る。

「場」としての制約を全てクリアする図書館を作ることは難しい。「場」としての図書館を利用できない人にも、できるだけ図書館の恩恵を受けることができるようにするために「サービス」としての図書館をどこまで充実させていけるかを考えてほしい。

伊東市の場合、地理的、交通手段の制約は大きいので、出張所での図書の貸出と返却、ともだち号の利用の拡充など、「サービス」としての図書館を充実していくことは「全ての市民のための図書館」として重要な課題だと思う。

<強調>

第3回策定委員会案について

今回のゾーニング案には①～③については、図書館というよりコミュニティセンター、学習センターの役割に向けるべき要望に迎合しすぎていて、図書館のアイデンティティーが崩されている。

・①～③について

ゾーニングの区分—機能別のゾーニングなのか？ 目的別なのか？ 基準が統一されていない。例えば、①交流機能=利用者の趣味別になっている区分けで良いのか？ 「図書館機能」との連続性はどんな機能を示しているのか良く分からない。利用者の目的別（音楽を聴きたいなど興味の場所）？ 基準が不定。

・②ティーンズ_児童コーナーは、世代別の分け方だが、図書文化の発信として、工芸・美術など、コーナーとして現代美術、音楽などへ、児童コーナー（世代別）は聴覚／視覚教材を中心のコーナーの基準にしてはどうか。

* 世代別に分かれたフロアイメージは①の機能と矛盾する？ トレーニングルームは不要。

・④、⑤は図書館の本来の機能であり必要且つ重要な機能。

* 新しいアイデアとは、図書館の機能情報発信の一つとして、ラジオ局の設置である。市と共有した情報の発信をしてはどうか？ 利用者（子ども—老人まで）が放送にスタジオに集まったりできるスペースなども良いと思う。

高校生班 テーマ①：「2回のワークショップを終えて」 <補足>と<強調>

<補足>
やっぱり、メインが図書館だからある程度寛げる場所にした方が良いと思う（そうでないと図書館に来ることが目的ではない人が増えると思う）。
→色々なスペースを必要とするなら、こういったことを防止するために、図書館を利用した人限定で色々なスペース（ラウンジスペース・足湯・プラネタリウムなど）を利用できるといった決まりみたいなのを作った方が良いのではないかと思います。
ハンモック。
ちょっとした遊具（ボルダリングや棒のぼりなど）。
プレイルームの持ち運び可能なボードゲームなどを公民館やコミュニティーセンターに取り寄せて遊ぶことができるようにする。
各小・中・高の学校に新着やおすすめの本を設置する。
勉強スペースに、各学校の参考書。
カフェやショップでは、伊東に関わるパンや菓子なども販売してほしい。
カフェではゆったりしたBGM。
本棚のところにどんな本があるのか、簡単に説明された点字が書かれていると本を借りるのに困らない。
屋上or最上階を、避難場所としても使えるように…。
バスや迎えの車を待つ休憩所？待機所？を外に設けてほしい。
駐車場の確保（地下など）。
全体的に自然（木）。

<強調>

くつろぎスペースに畳がほしいです。

柔軟な思考がつくので小さい子から大人まで楽しめるボードゲームのあるプレイルーム、自分の鍛えたい場所を鍛えることのできる器具のあるトレーニング室がほしいです。

子育てスペース

→親がゆっくりできるように子どもを預けるスペース/親子で安全に楽しめるようなスペース

勉強のスペースはなるべく確保してほしい。

勉強スペース

→個人スペース/教え合いスペース

学習スペース/Wi-Fi/リラクゼーションスペース/飲食スペース/フリースペース/遊びスペース/娯楽スペース設置してほしい！

カフェ（ネットカフェ）

→Wi-Fi/パソコンなど/充電できる所

視覚障害の人のための点字ブロックを作るべき。

体の不自由な人でも

→点字の本を増やす/車いすの人でも使えるようにエレベーター設置

Wi-Fiは強いのがいいです。

災害が発生したときの安全の拠点となってほしい。

色々な人が来れるようにシャトルバスの停車場はちゃんとした方が良いのでは無いでしょうか。

中学生 A 班 テーマ①：「2 回のワークショップを終えて」 <補足> と <強調>

<補足>
自習室は個々の空間にしてほしい。
PC室は印刷機も設置。
外観は、明るく入りやすい印象を与えるものが良い。
全体的に近代的よりかは木造での暖かい感じが良い。
図書館でのイベントを活発化。 <ul style="list-style-type: none">・作家の特集・個展・本以外の展示
展覧会などの場を設けるサービスも良いと思う。
ポスターやパンフレットを市内の学校や店、コミュニティーセンターに置いてほしいと思う。
図書館などの活動の広報活動を活発化。→活動があっても分からない時がある。
防犯をしっかりと、みんなが安心安全に過ごせる場所にしたい。
防音もしっかりとしてほしい。
マナー、ルールを破る人が出ないような工夫をしてほしい。

< 強調 >

本を読む空間・くつろぐ空間・体を動かす空間・議論する空間など
・様々な空間の切り替えをはっきりとさせる。

部屋によってテーマを変えること。

例) 学習・静か、文化・静か、フリー・自由、遊び・運動、寛ぎ・安心、Wi-Fi・自由
たくさんの部屋を作って、色々なことをできるようにしてほしい。

本を分かりやすく並べる。

ティーンズコーナー

- ・学習室…参考書や問題集を設置。
- ・グループ学習室…ホワイトボードなどを設置し、学生たちで議論したり教え合う空間。

学習室はちゃんと集中できる空間が良い。

ともだち号は続けてもらいたい。

カフェなどはしっかりとくつろげ、休める雰囲気にしてほしい。

新図書館では、今の図書館には無い「動」の要素を入れていきたいので、友達と楽しくスポーツができるスペースがほしいです。ずっと本を読んでいたたり勉強していると飽きるの、室内でできる卓球がいいなと思いました。卓球なら子供も大人もできて、リフレッシュできると思います。

ショップやスポーツ（テニス、バスケ）のコートも、市内のお店と同じくらいの品揃えだったり、壊れていたりがないようにしてほしい。

スマホが充電できるコンセントの設置を多めに。

Wi-Fiも設置。

Wi-Fiなどのネットワーク環境の設備はしっかりしてほしい。

中学生 B 班 テーマ①：「2 回のワークショップを終えて」 <補足> と <強調>

<補足>

本の置き方を工夫する（棚に入れるだけでなく、新しい本とか、オススメの本などを、表紙が見えるように机の上に置く）。

→表紙から本とつながりを持つ場合があると思う（自分がそうだった）。/机の上に置くことで手に取りやすくなる。

部屋同士はキツキツより廊下などを広くして間隔を広げてほしい。

空調の設置。

→夏にわざわざ暑いところ行かないし、冬に寒いところにも行かないから、空調は、多めに設置したほうが良いと思う。

図書館が無い地域の使われてないコンビニに予約機を3台くらい置いて、中央図書館などの本を借りられるようにする。

静か・ゆったりのどっちか

- ・静か：予約機、机・イス、返却ポスト、電子書籍ゾーン（子供が払えるくらいの代金）
- ・ゆったり：予約機、座ったらかたまるクッション、上がガラスの机、鍵付きのチェストにアイパッド、お金を支払うところ（子供が払えるくらいの代金）→鍵をゲットする

バス停の設置。

→シャトルバスより、様々な面で、有効に活用できると思ったから。

<強調>

本の販売は良いと思うから是非やってほしい。

郷土資料展示コーナー。

キッズスペース。

学習室。

個室を多く用意してほしい。

小ホール。

多目的室など。

カフェがほしい。

カフェはほしいと思う。

カフェスペース。

体育館のような場所がほしい。

バスケットコート、テニスコート、体育館。

→伊東に無料でバスケできるところが少ない。運動目的で、多くの人が来ると思う。

博物館スペース。

→季節によって、その時期のイベント、植物などについての本を置くスペースがあってもいいと思う。

足湯。

→伊東の魅力である温泉を、簡単な形で、最大限アピールできるから。

一般A班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

施設との連携サービス

施設に限定されないサービス

アプリがあったらいいと思う

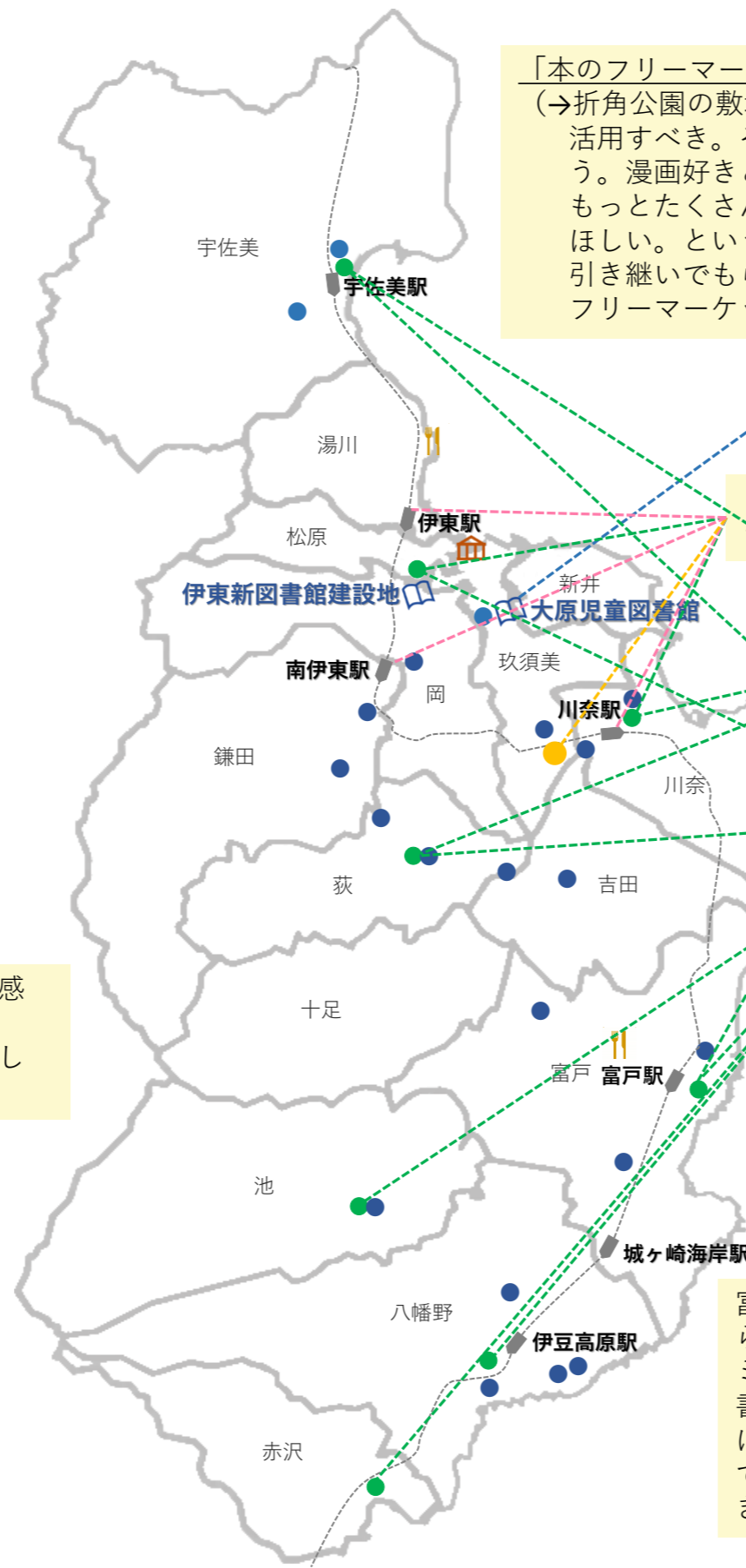
- お知らせ
- 新しい本
- たくさんの方の求める本情報など発信してくれるアプリからのコミセン等での貸出返却などなど...

SNSや新聞を用いた新作図書などのお知らせ
(→読んでみたいが買おうか迷う本が置いてあることを知れるのはかなり有り難い！)

生涯学習センターで行われているイベントなど、ネットで見られる、予約ができる

高齢者のサークルなどから本の修復作業のボランティアを募る

市内各小中学校に「読書感想文課題図書」の貸出
(数に限りがあるので難しいかもですが...)



「本のフリーマーケット」の開催！
(→折角公園の敷地内にあるのだから、そのスペースを活用すべき。そして「認知度の低さ」も問題だと思う。漫画好きとして児童図書館は宝庫だったから、もっとたくさんの方の本との出会いの拠点になってほしい。ということで、読まなくなった本を誰かに引き継いでもらえるのも出会いなのでは...?と思い、フリーマーケットとしました。)

アピタなど大型商業施設やコミュニティセンター各駅での返却ポスト設置

コミュニティセンターでの古本回収
→リサイクル、再利用する

コミュニティセンターへ移動図書館を継続すると共に配信をしてほしい。
SNS?アプリ?サイト?配信しながらどんな本がどんなところへ行くか...配信。市民とやり取りしながら本の移動をしてほしい。

中央会館以外にも、各コミセンにてお話し会や図書館マナーオリエンテーリング

富戸、八幡野、池など図書館から遠方の地域のコミセンでは、ミニ図書館のスペース配置、新書の紹介やおすすめ本、図書館にある本の画像から本の予約ができる、イベント毎の予約ができる。

【凡例】

	駅
	図書館
	公民館・コミュニティセンター
	移動図書館停車位置
	木下空太郎記念館
	道の駅・旅の駅

一般B班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

施設との連携サービス

施設に限定されないサービス

郵送で本を借りられるサービス動けない方に！

電話でのレファレンスサービスメール対応できればなお○

図書館サービスの延長となると、屋内でのサービスが多い。もっと一般の人に知ってもらうという意味で、屋外でのイベントを行ってほしい。
(例) 本好きの人の知識のフリーマーケット
(テーマを設け、作者と本を好きになってもらう)
(様々なサスペンスの作者好きを集め、無理強いしない活動)
(テーマに沿った題材の劇を行い、周りで各おすすめの本、又は屋台があるなど、寄ってみたくなる屋外イベントがあると面白い)

図書館で作った本の展示即売イベント&フリマ(コミケ形式)。お店で売るとまた違って、子供たちの良い経験になります。ギャラリーで展示企画するのも良いですね。

当たり前のサービスを受けるだけではなく、誰かが輝ける場所だったり、毎回行く度に図書館があって良かったと思う場所作りをお願いします

市内書店と連携し、講演会やワークショップなどのイベント時に書籍の販売を行う

地域の書店を応援したい！
図書館で見る→Amazonで買うという流れになりがちなので、地域の書店で買いやすくなる取り組みをしたら良いと思います。
(例) 図書館で書店注文に必要な情報を打ち出せるようにし、その紙を店に提示するだけで注文ができるようにする等。/図書館近くに数店合同の出張店を出し、買う(注文する)人は受け取り店を選べるようにする。/書店と図書館で合同イベントをする。

建設される館舎もサービスも何れ老朽化するの自明であると思えるから、館内図書は児童図書、旧来から現代の地域文化図書や学術書などの所謂「カタイ本」を主として、雑誌や一般的な娯楽図書などは、図書館の周囲に税制を和らげて書店やカフェを誘致するなどして、また図書の貸し出し、返却を連携するなど地域の活性化を図って欲しい
(予定されている国道135号線バイパスのステークガストからの道路の拡幅から伊東市民病院までを図書館を起点として)

あったらうれしいお店！
ボードゲーム・カードゲームshop/児童書専門店/観光案内所/子連れOKのランチが食べられる店。ママ会対応。/スーパー/古書店...辞書等シェア。マンガが安い等。/箱貸しギャラリー/市内書店の出張店舗/コンサート情報&チケットセンター/本をテーマにした飲み屋さん(駅まで送ってくれる)/浮世絵の店←本物/子供たちが買い物できる文具・キャラクターグッズ店/本物の画廊/カフェ兼インフォメーション兼洋書店(ガイドブック+α)/徒歩圏内に子どもの英会話教室等。市内の教室混んでいて曜日が選べないのが悩みです！ 図書館で待てたら最高です。

移動図書館車の稼働の無い時に、単発的に市内イベントへ出向く

巡回バスは必要と思われれます

まちあるきにも対応した駐車場
バスはすぐ近くに停める歩かせないで...

一碧湖のカフェに出張本棚どうでしょう？

福祉センターのカフェ
席を増やして、スタッフ増員お願いします！ ここのお弁当を図書館でも売る!? コーヒーおいしいですよ。

返却ポストは沢山ありますが、返すより借りる方が利用者にとっては大事&楽しい。大変ですが、なんとか貸す&本を目に触れるところに持って行く方に力を入れたいところ。

東海館の展示が実は一番文学テーマですよ。空太郎の方では本が買えるけど、東海館では読める本が手に取れたかどうか...?? この連携を見たいです。

空太郎の資料(原画等)を図書館でも展示してほしい！

小さい子がいますが、つい最近まで知らず、まだ行ったことがありません。

小室山あたりで本フェス。ともだち号が2台~3台あったら。ジャンルに分けて勢揃いとか。

癒しのライブラリー等私設図書館の出張棚を中央図書館に！ 短期でも面白いと思います。ギャラリーでもいいし。

各コミセン図書館に中央図書館の出張棚を設置。定期的に入れ替え。各区の図書担当者に司書さんがコンサルも。また区と調整して、読みかかせなどの出張イベントもできると○。

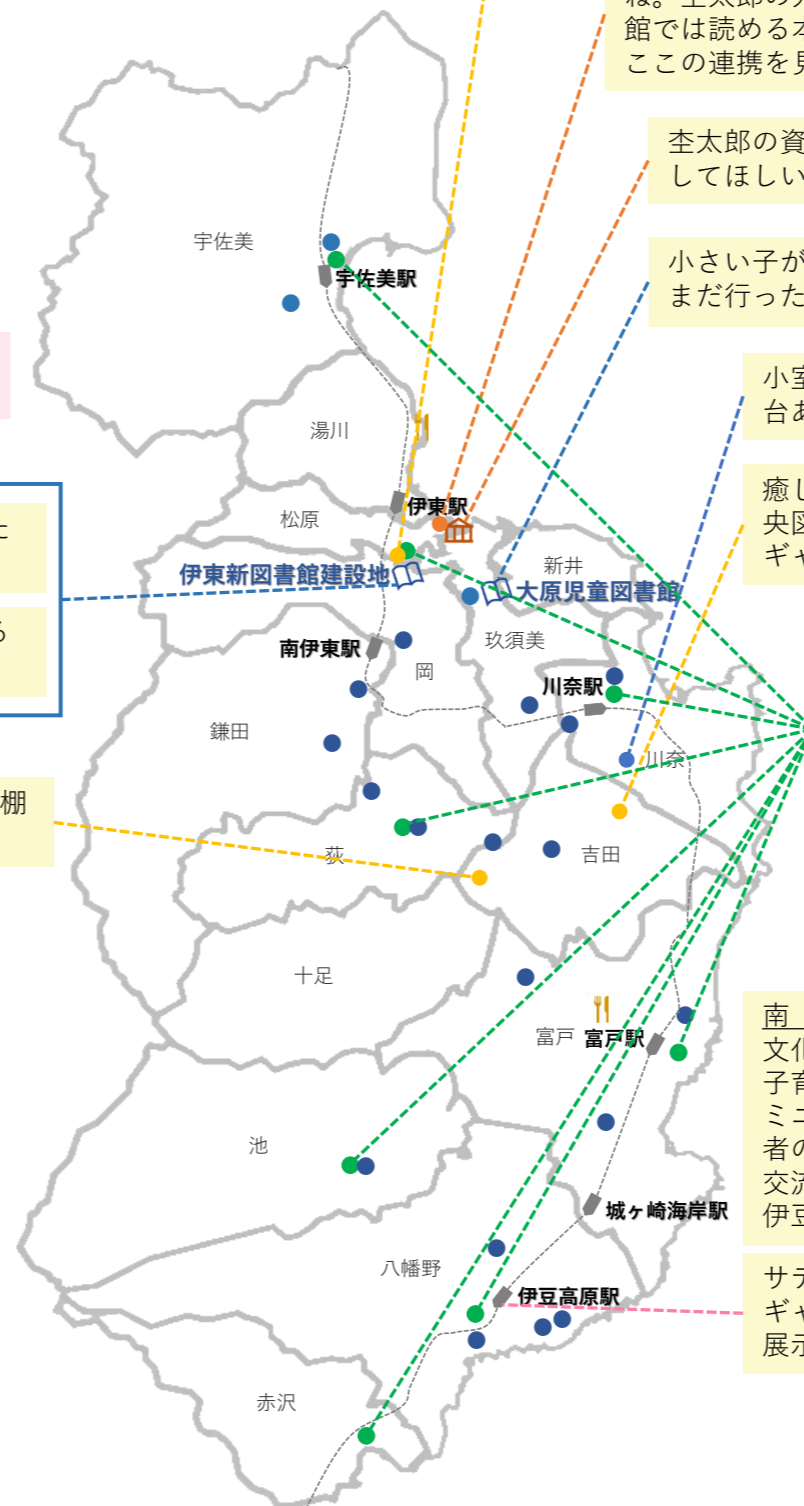
公民館、コミセン図書室との相互貸出、またはサービスポイントとして活用し、南部地域の利便性を向上させる

南(伊豆高原エリア)について
文化意識が高くキャリア経験がある移住の年配者と、子育て世帯が多いです。出張カウンターだけではなくミニ図書館があっても良いと思います。子連れvs高齢者の対立も時折感じることもあり、あえてこの2者の交流をすすめる取組みをするべきかなあと感じます。伊豆高原駅近くなどの立地も良いです！

サテライト図書館。ギャラリーも作って展示を巡回する？

【凡例】

🚉	駅
📖	図書館
🟢	公民館・コミュニティセンター
🟡	移動図書館停車位置
🏠	木下空太郎記念館
🚦	道の駅・旅の駅



一般C班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

施設との連携
サービス

施設に限定され
ないサービス

電子書籍の導入をする

1. 図書館のパソコン端末で利用
2. 自宅からパスワードを入力して利用

情報発信

伊東市の現在の統計資料、サービス内容蔵書の検索、各地域の移動図書館の日程など。情報の新しい内容に加えて簡単な読書感想（利用者から投稿を募って掲載）の情報を提供する。

図書館離れの対応

伊東という地を生かす観光スポット

新図書館の拡張による増員を補う自動化

図書の返却ポストを設ける
駅、市役所出先機関

貸出渡し場所を設ける
市役所出先機関

アクセス

マイクロタイプでのシャトル路線バスのルートを変更
停留所名 図書館前

民間図書館・公共図書館の蔵書データの共有化・運用方法

- ①「癒しと憩いのライブラリー」と「沙羅の木文庫」は各2万冊の本がデータ化され、蔵書検索ができます。伊東市図書館も蔵書検索ができます。
- ②市内保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校の図書室および各コミセン図書室を蔵書検索ができるようにする。
- ③そしてすべての伊東市内の蔵書検索を市民が可能にしてほしい。
- ④民間図書館については各開館時に出向いて借り返却する。
- ⑤公共図書館は予約すれば各地図書館に出向けば借り返却できるようにしてほしい。

民間図書館との連携

伊東市内に『まちライブラリー』として登録されているライブラリー3ヶ所と民間図書館2ヶ所あります。

- 1「癒しと憩いのライブラリー」（サザンクロスリゾート内）
伊東市吉田1006 2万冊 癒し関係2千冊
 - 2「まちライブラリー@伊豆高原ゆらら」
伊東市富戸1125-40 アトリエ
 - 3「まちライブラリー@Izu Grace Salon」大人と子どもの寺子屋
伊東市八幡野1166-18 1F 絵本・児童書他
- 民間1「沙羅の木文庫」2万冊 絵本・一般
伊東市大室高原7-122
- 民間2「壺中天の本と珈琲」伊東市八幡野1033-7 カフェ喫茶



移動図書館を宇佐美中へも

中学生は本離れの年齢。中学生時代は自己確立の時。人生の進学就職への分岐点です。自己を見つめ直すためにも一冊でも多く本を読んでもらいたい。電子書籍化されない多くの本を読んでもらいたい。

中学生生活に必要な不可欠な本
多種多様な知識と知恵を得、自分自身で考える力を与えられる本

自己のアイデンティティを確立させられる本

自己の身体能力の発揮を促す本を与えてほしい

引きこもりをさせないためにも、特別な場所で本を見る経験をさせてあげたい（新たな体験）

ともだち号や出張所（公民館）での本の貸出と返却の際に、本館と連携をとれる端末を導入する

出張所で予約した本の貸し出しと返却ができるようにする
（伊豆高原駅にサテライト図書館ができる場合には対島出張所はなくても可）

サテライト形式での無人図書館を既存の公民館・コミュニティセンターに設置する
公衆電話のスペース（3-5ボックスの程度）ガラス張り

伊豆高原駅にサテライト図書館を設置する

伊豆高原駅にサテライト図書館を設置する

【凡例】

	駅
	図書館
	公民館・コミュニティセンター
	移動図書館停車位置
	木下奈太郎記念館
	道の駅・旅の駅

高校生班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

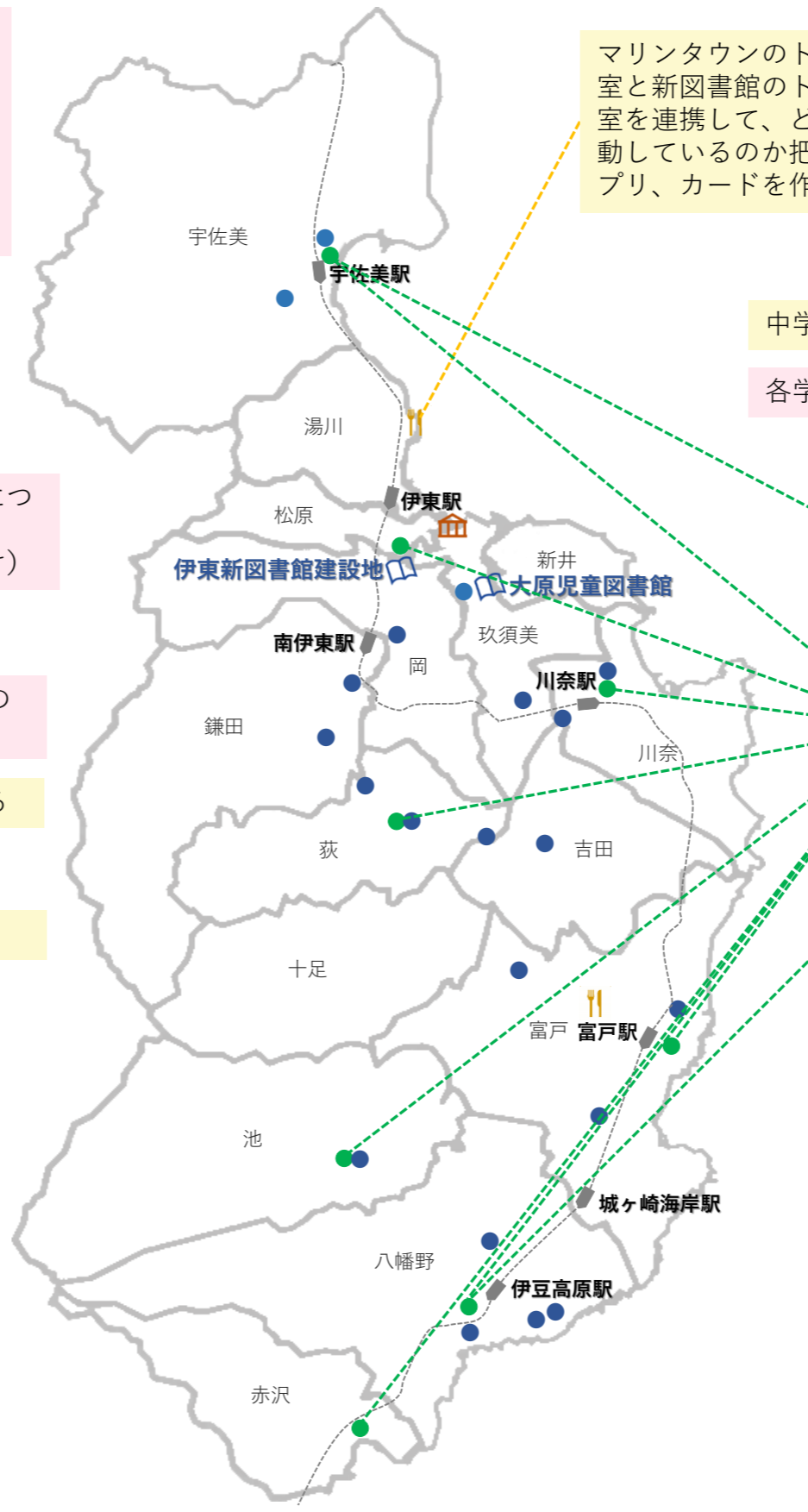
施設との連携サービス

施設に限定されないサービス

- 電子書籍の導入
- 伊東に関する本のデータ化
→小・中学校での地元研究で使用しやすいようにする
- 視覚障害の人でも本が楽しめるように本の内容の音声配信をする
- 障害者・高齢者・多文化
- 閲覧・貸出・リクエスト
- レファレンス（学習など）
- 児童・青少年
- 雑誌・地域資料・パンフレット・チラシなどの意義

- ラインの公式アカウントの作成
 - ・ イベントの予告
 - ・ 新着本の紹介
 - ・ 本の貸出状況 ←本の名前をコメントすると、チャットボットにより、今あるか教えてくれる
- いろいろなお店に図書館についてのポスターを掲示（イベントなどの呼びかけ）
- 駅などの公共施設に図書館の情報の掲示
- 各駅に返却ポストを設置する
- 移動図書で本の返却

色々な老人ホーム
足の悪い人々のために（体調など）色々な老人ホームに本の注文書や購入書を置く（パンフ）



マリンタウンのトレーニング室と新図書館のトレーニング室を連携して、どのくらい運動しているのか把握できるアプリ、カードを作る

中学・高校にも返却ポストを
各学校に読み聞かせ（小・中）

借りたい本、ボードゲームを取り寄せてコミュニティセンターで使用する
※本は持ち帰り可
ボードゲームは持ち出し禁止

各コミセン（公民館）に新しく入荷した本の内容についてのポスターなど

小学生の子が学校の帰りなどに立ち寄れるよう、返却ポストを設置

【凡例】

	駅
	図書館
	公民館・コミュニティセンター
	移動図書館停車位置
	木下空太郎記念館
	道の駅・旅の駅

中学生A班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

施設との連携サービス

施設に限定されないサービス

図書館の本の貸出情報などを
一目で確認できるスマホアプリ

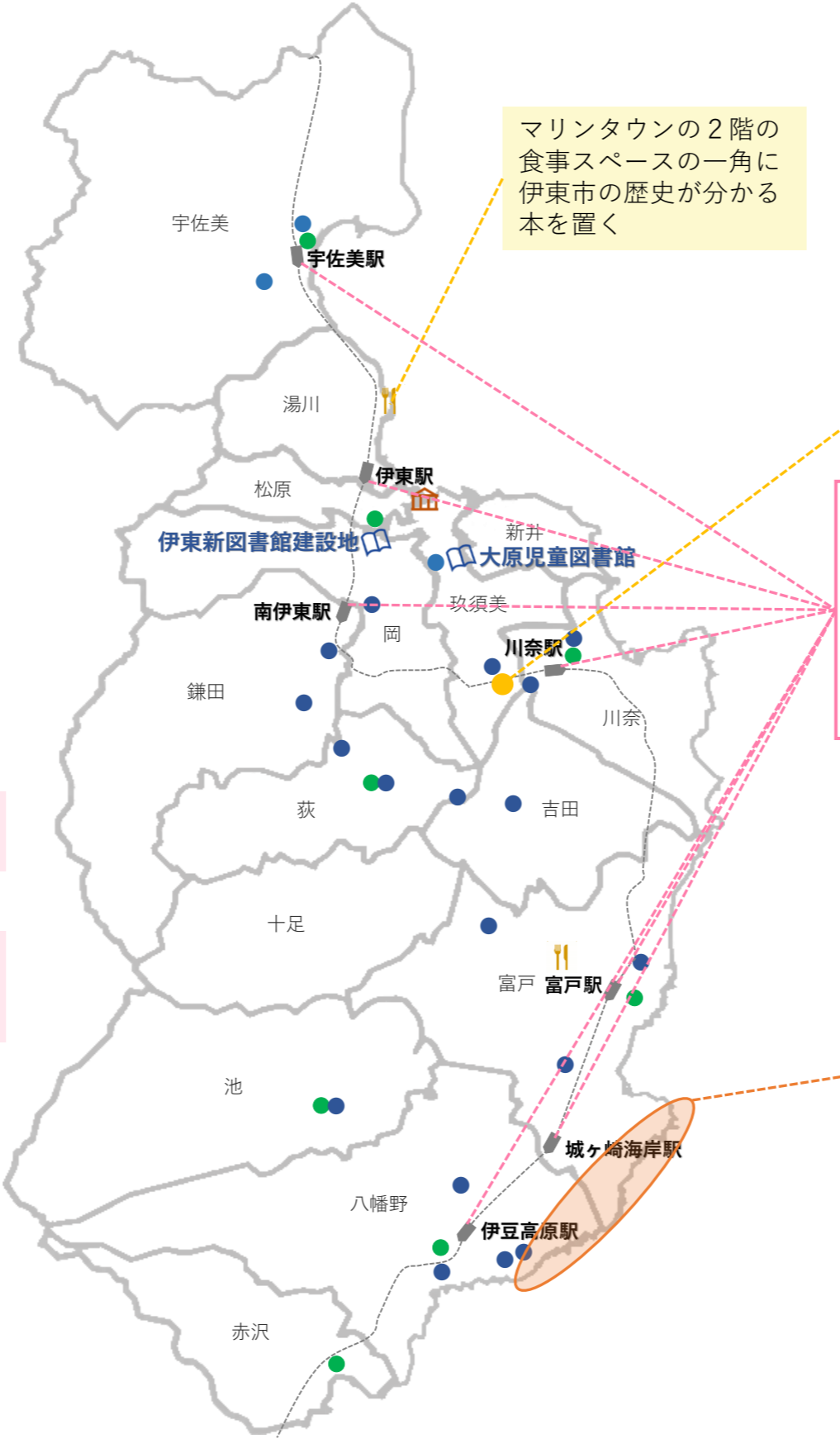
インターネットにホームページ
を設置

電子書籍の導入

利用者が貸してほしい本を募集し、
図書館に蔵書する
→定期的に行う（みんなに分かりやすいように...）

ともだち号で、予約本の受け取り
ができる

返却ポストのある場所で、予約
をして本を借りられるように
してほしい



マリントウンの2階の
食事スペースの一角に
伊東市の歴史が分かる
本を置く

アピタに小さい子ども
が絵本を読めるような
スペースをつくる
（本棚を設置）

アピタなどで世代別
（子連れ、学生、若者、
主婦、シニア、etc...）
向けのイベントの開催

アピタから図書館まで
のバスを出す

各駅や学校、アピタ、
コミセンにポスターや
ガイドブックを置く

返却ポストも

駅に返却ポストを設置
する

伊東市の各鉄道駅に伊東の情
報を調べられるタッチパネル
を設置
市と取り組みの確認
市の各施設の運営時間の確認
イベントの確認

綺麗な景色を見ながら本を読
める施設

【凡例】

	駅
	図書館
	公民館・コミュニティセンター
	移動図書館停車位置
	木下空太郎記念館
	道の駅・旅の駅

中学生B班 テーマ②：新図書館を拠点とした市全体のサービス網を考えよう

施設との連携
サービス

施設に限定され
ないサービス

ネットなどで、今、図書館にどんな本があるのか、どこにあるのか、貸し出ししているのか、いないのか、一覧で見られるようにしてほしい

電子書籍の導入・拡充をする

色々な場所からのシャトルバスを出してほしい

道の駅などで伊東の歴史などが書いてある冊子を無料で置いておく

アピタに返却ポスト

返却できる場所を増やす
(駅・アピタなど)

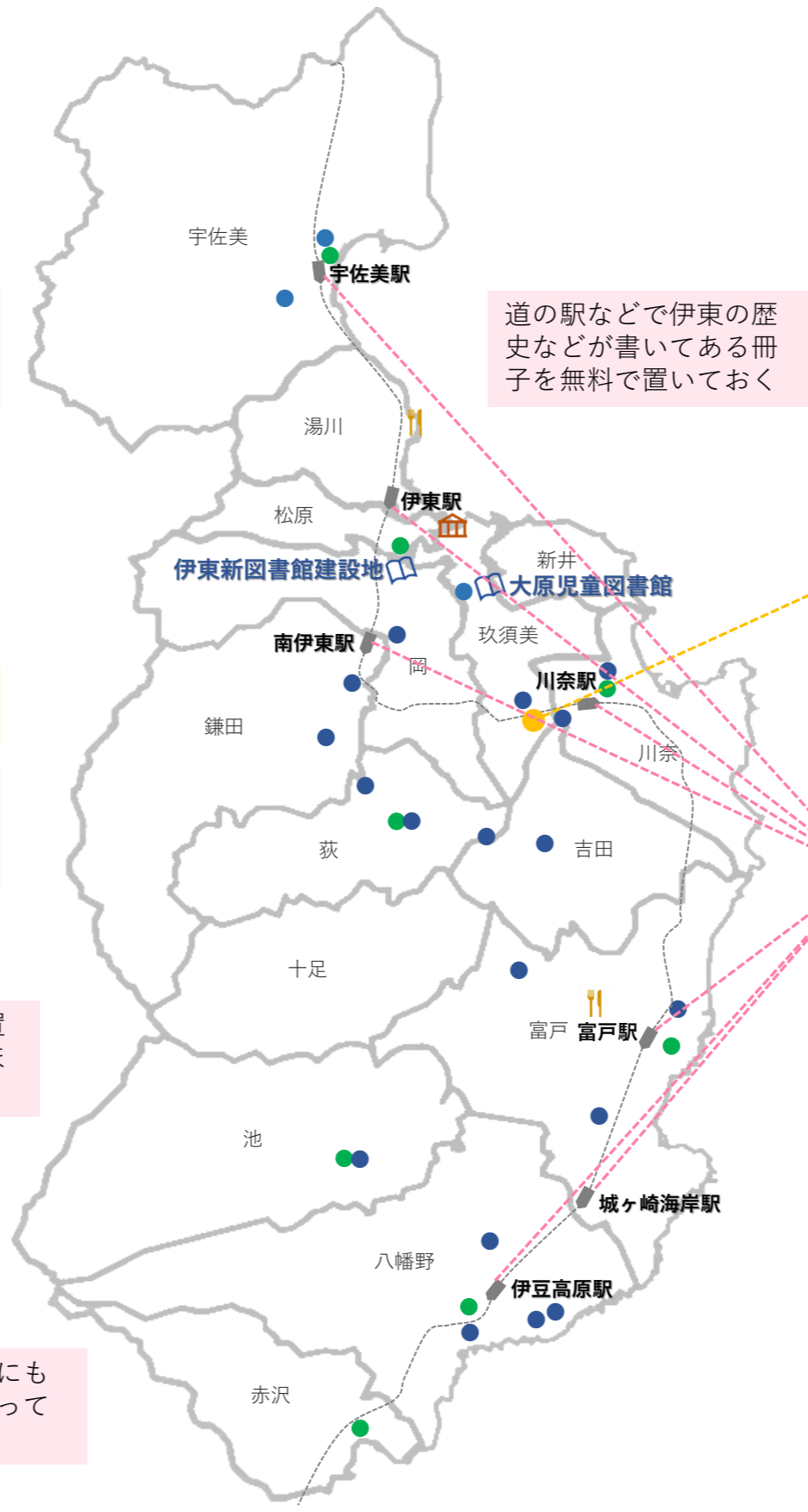
各駅に返却ボックスを設置する

各小中高校に返却BOXを設置する

学校・公園への移動図書館
(今より見やすい場所に日程表を貼る)

移動図書館の停車位置をもう少し増やしてほしい

十足、赤沢の方にも移動図書館が行ってほしい



【凡例】

	駅
	図書館
	公民館・コミュニティセンター
	移動図書館停車位置
	木下空太郎記念館
	道の駅・旅の駅